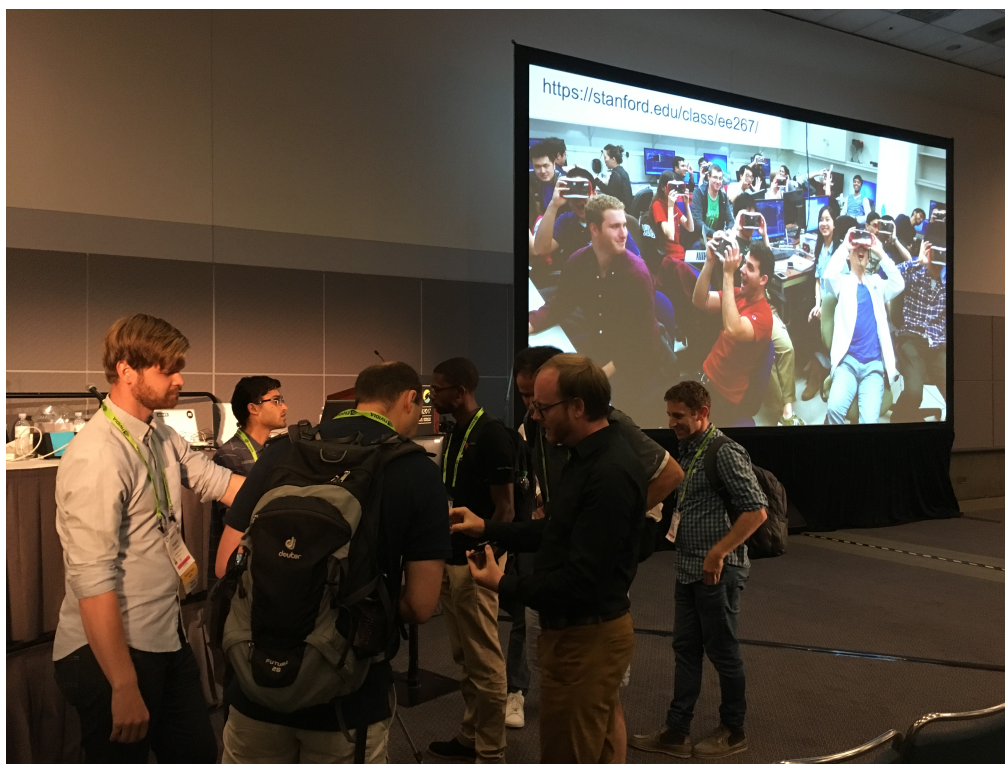


留学報告書が十個目になりました。とうとう留学も六年目に突入したということです。理解はしていたものの、同時期に留学を開始した友人たちは多く卒業した一方で、自分はまだまだ卒業できないという状況は精神的に良くないと感じています。できるだけ早く卒業できるように、がんばっていきたいと思います。

## 1. 研究活動について



**SIGGRAPHのコース終了後に質問を受けている様子  
(私：スライドの中心で緑のTシャツ)**

昨日、Stanfordに来てようやく一報目の論文を投稿しました。まだ投稿中なので、内容についてはまだ書くことは出来ませんが、光学顕微鏡画像に対するアルゴリズムの開発についての論文で、自分の今までの色々な経験を活かした論文になったと思います。しかしながら、当初2ヶ月程度で終わらせられると予想していたものの、結局一年近くかかってしまいました。その理由の一つとして、すでにあるアルゴリズムをより実践的に使えるようなアルゴ

リズムにすることと、Proof-of-concept的な研究をすることの大変さの違いをわかっていなかったことが問題だったのかなと終わってみて感じています。次のプロジェクトは慎重に考えたいと思います。

研究の一方で、TAをしていた授業の延長で、SIGGRAPHとEI Imagingという学会で、DIYのヘッドマウントディスプレイを作るコースを行いました。今年もまたTAをやるので、その宿題の改良をラボメートと現在行っています。教授が作ったレクチャーノートや宿題など、全て公開されているので、Virtual Realityはどういう技術でなり立っているのが興味があれば、是非ウェブサイトをご覧ください！ (<https://stanford.edu/class/ee267/>)

## 2. 今後の予定

2016年はインターンをしましたが、2017, 2018年はインターンをせずに大学に残って研究をすることにしました。去年も今年も魅力的なインターンのオファーを貰っていたものの、早く卒業するためには大学に残り研究しなければならないと感じたからです。大学を夏の期間離れていると、大学の研究をリスタートするための期間も精神的に必要で、四ヶ月ほど研究が遅れてしまうと2016年の経験で感じました。しかし、外国人の大学院生としてビザの問題もあるので、2019年にインターンをし、そのままジョブオファーを貰い、その後一年以内に卒業し、インターンをした会社に就職するという道筋が理想だと最近は考えています。（インターン期間終了から一年以内に卒業する場合、インタビューなしにジョブオファーを貰えることが多いため、外国人の大学院生がよく行う手段です。）卒業時期の心配をすることは多いですが、残りのPh.D.の期間インパクトがある研究を行えるように頑張ります！